



マップ「インドネシアにおける日本軍の性暴力」には、被害者の証言と兵士の手記、慰安所の写真、公文書などからわかるインドネシアでの性暴力被害の実態が並ぶ。

主な展示内容

- インドネシアの歴史と文化
- オランダによる植民地支配
- 日本軍の侵略と民衆の動員、性暴力の実態
- インドネシア女性とオランダ系女性の性暴力被害と戦後
- インドネシア・日本軍による性暴力被害マップ
～被害証言、元兵士の手記、公文書から
- 戦後のインドネシアと人権
～軍事強権体制のなかでの女性・民衆への暴力

占領から敗戦までの3年5ヵ月、日本がインドネシアにもたらしたのは、「解放」とは対極の暴力による支配でした。「ロームシャ」「ヘイホ」「バックヤロー」などの言葉とならんで、今では「イアンフ」も日本軍政期の恐怖を表す言葉として、インドネシアの人びとの間で語り継がれています。日本軍による性暴力を「恥」と考え、口を閉ざしてきた女性たちが、長い沈黙を破り語り始めたからです。

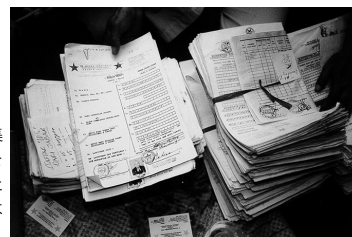
この特別展では、インドネシア、オランダ、韓国、台湾の合わせて70人以上の女性たちの証言から、慰安所での被害を含む日本軍の様々な性暴力の実態を伝えます。被害証言の隣には日本兵の手記を並べました。兵士が記憶する「慰安婦」と被害女性の言葉、そのギャップの意味を考え、加害に向きあうきっかけにしたいと願っています。



日本軍政の広報のために発行された雑誌『ジャワ・バル』には、「日本のすばらしさ」を紹介する写真が並ぶが、実際の支配は過酷さを極め、多くの餓死者が出たり、各地で抗日蜂起も起こっていた。



飢餓状態で病院に収容されたジャワの住民たち
 出典：『インドネシア 写真記録東南アジア2』
 (倉沢愛子編／ほるぷ出版／1997年)



インドネシア元兵補協会に集まった調査カード。2万人を超える女性が被害を登録したが、具体的な聞き取り調査はなされないままだった。

オランダ人元捕虜と民間の被抑留者が1994年(追加で1995年)に、損害賠償を求めて日本政府を提訴。「慰安婦」被害を公にしていたプロフさんも原告の一人だった。

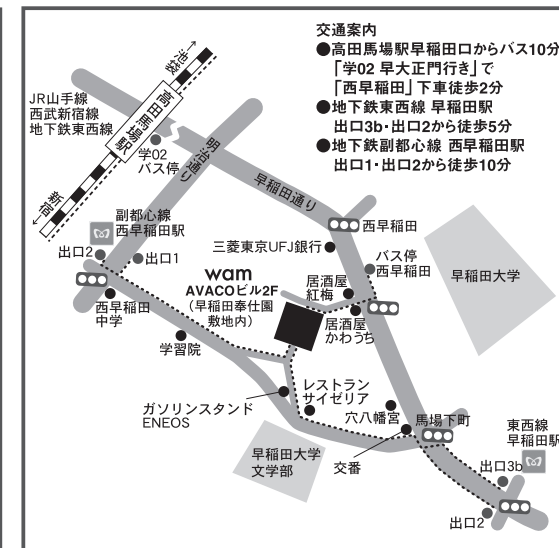


LBH(インドネシア法律扶助協会)ジョグジャカルタ支部の前で、プディ・ハルトノ弁護士(左端)と「慰安婦」被害を名乗り出た女性たち。左から3番目のマルディエムさんは近所の被害女性を定期的に訪問し、助け合った。

ボルネオ島バリクパバンの慰安所で「慰安婦」にされた女性たち。後列左から2人目の男性は慰安所の経営者だと言われているが、顔を細工して隠している。



【写真提供】
 岡野文彦
 川田文字
 木村公一
 柴崎温子
 信川美津子



開館時間：水～日：13:00～18:00

休館日：月・火・祝日

※祝日の休館日はお問い合わせください。
 ※団体の時間外訪問をご相談ください。
 ※展示入れ替え期間は休館となります。

入館料：18歳以上 500円
 18歳未満 300円
 小学生以下 無料

※障がいのある方の付き添いは無料です。

会員になりませんか？

wamは国や行政から支援を受けず、自立して運営する民衆の資料館です。ぜひ会員になって支援してください！

友の会：3,000円(年) 維持会員：10,000円(年)

会員には会報やイベント案内などをお送りします。維持会員は、入場無料、セミナーやカタログの割引もあります。

wam

アクティブ・ミュージアム
女たちの戦争と平和資料館
 women's active museum on war and peace

新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051
 t 03-3202-4633 f 03-3202-4634
 wam@wam-peace.org www.wam-peace.org